

査読済み論文数

1. 20年度査読済み論文数 **232本** (平成20年度予算:4,779百万円 5本/億円)

(参考)第1期中期目標期間の実績 5本/億円

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合計
査読済み論文数	81本	321本	333本	367本	217本	1,319本
予算(百万円)	2,727	5,821	6,163	6,548	5,892	27,153

<中期計画目標>

「技術シーズの育成事業」においては、事業の実施に基づく査読済み研究論文の予算当たりの発表数を、技術分野ごとの特徴その他適当な条件を加味した上で、第1期中期目標期間と同等以上とする。また、これらの研究成果が、どのような社会的インパクトを与えたかをシミュレートできるモデル及び指標に関する検討を進める。

2. 掲載論文例、掲載雑誌等

◆テーマ名「リチウム電池用超環境適合材料の創製と最適化」

研究代表者 山田 敦夫(東京大学)

論文名 Experimental visualization of Lithium Diffusion in LiXFePO4

掲載誌 Nature Materials (I/F:19.782)

◆テーマ名「カーボンナノチューブの金属・半導体型大規模分離技術の開発」

研究代表者 田中 丈士(産業技術総合研究所)

論文名 Simple and Scalable Gel-Based Separation of Metallic and Semiconducting Carbon Nanotubes

掲載誌 Nano Letters (I/F:9.627)

◆テーマ名「秩序化されたカーボンナノチューブの創製と次世代半導体デバイスへの展開」

研究代表者 吾郷 浩樹(九州大学)

論文名 Crystal plane dependent growth of aligned single-walled carbon nanotubes on sapphire

掲載誌 Journal of American Chemical Society (I/F:7.9)

若手研究グラントにおける広報支援

若手研究グラントにおいて、研究開発成果を産業応用化、実用化に結びつけるための支援を実施。

具体的には、研究成果のプレスリリース(110件)、パンフレットの作成・配付、イベント等への参加による成果の発信などの活動を有機的に組み合わせ、優れた産業技術シーズや実用化開発の成果を広く産業界に告知することにより、産業界のニーズを把握するとともに、ビジネスパートナー、ユーザーとの連携強化を促進。

20年度は110件のプレスリリースを実施。

プレスリリースした成果のうち、新聞の掲載が多かった例

山田淳夫氏／東京工業大学	20紙
熊谷誠治氏／秋田県立大学	8紙
小峰啓史氏／茨城大学	6紙
小室孝／東京大学	6紙
林晃敏氏／大阪府立大学	5紙

電池の中のイオンの動き、見えた
一次世代大型リチウム電池用電極中の1次元トンネルを視覚化—
山田淳夫氏／東京工業大学



視覚化されたリチウムの拡散経路

若手研究グラントの意義、成果をイノベーション・ジャパンにて講演



若手研究グラントの成果をまとめ、わかりやすくパンフレットに集約

